

「学術情報リポジトリ」による 研究成果の発信

奈良文化財研究所では、研究成果の社会的還元のため、過去の刊行物をインターネット上で電子公開しています。コンテンツは、紀要(年報)・概要・学報・史料・発掘調査出土木簡概報・飛鳥資料館図録・現地説明会資料・展示解説資料・奈文研ニュース等です。各コンテンツには、それぞれOCR(光学文字認識)処理を施しているため、任意のキーワードで全文検索できます。そのため自分の興味がある論文に容易にたどり着くことが可能です。

2015年1月現在、論文(記事)単位で1,894件公開しています。電子公開には、図版類の許諾確認が必要であり、確認を進めつつ、権利関係をクリアしたコンテンツから順次公開しています。

人気のあるコンテンツは、現地説明会資料や展示解説資料等です。これらの資料は性質上、冊子体になっておらずパンフレット形式であるため、全国の図書館には配本されません。現地説明会や展示場所以外では入手できないため、電子公開は、貴重なコンテンツ提供の場所となっています。

2015年1月には、国立情報学研究所が提供しているNII学術情報データベースCiNiiとデータ連携を開始しました。これによりCiNiiで検索した論文を奈文研のリポジトリにて本文を電子閲覧することが可能となり、成果提供の機会が増え、利便性が向上しました。

利用者の方々にはたいへん好評で、アクセス件数は増加基調です。一度、「学術情報リポジトリ」にアクセスいただき、研究成果をぜひご活用ください。

(研究支援推進部 高田 祐一)



学術情報リポジトリ トップページ
(<http://repository.nabunken.go.jp/>)

第18回古代官衙・ 集落研究集会の開催

奈良文化財研究所では、古代官衙と集落に関する研究集会を毎年開催しています。本研究集会は、律令国家を象徴する都城とその対極にある集落、その両者を結ぶ地方官衙の有機的な関係をあきらかにすることを目的としています。1996年に第1回研究集会を開催し、現在にいたっています。

2014年12月12・13日に第18回研究集会を開催しました。今回は「宮都・官衙と土器」をテーマとし、7名の報告者による研究発表と総合討論をおこないました。参加者は148名でした。

総合討論では玉田芳英(都城発掘調査部副部長)の司会のもと、都城・官衙遺跡から出土する土器の特徴とその歴史的背景について議論が交わされました。また、各報告者が扱った地域以外の研究状況についても多数の参加者からの発言があり、活発な討論となりました。これらの成果は来年度、研究報告として刊行する予定です。

本研究集会は、考古学・文献史学・建築史学・歴史地理学等、諸分野の研究者が一堂に会し、律令国家を構成する様々な遺跡、遺構、遺物の中から毎年一つのテーマを取り上げ、様々な角度から掘り下げていく学際的な研究集会である点に特色があります。都城を主なフィールドとする私たちにとっても、遺跡から古代国家をあきらかにしようとする共通の問題意識を持った方々と議論を交わせることは、大変勉強になります。今後とも古代官衙・集落研究会の活動にご注目ください。

(都城発掘調査部 小田 裕樹)



発表の様子